

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344

「三船病院 これからの抱負」

三船病院理事長 三船 和史

急性期精神科医療から長期入院患者様の退院促進・地域生活支援まであらゆるニーズに応えることが三船病院及び法人としての三愛会の基本方針であります。当院は昭和28年7月1日に創設され、56年が経過し、この間に多くの患者様の医療を行ってきました。入院患者数は昭和60年頃に約700名に達していましたが、その後は一貫して減少に転じています。昭和56年頃から社会復帰活動に特に力を入れていたことがその一因でもあります。これまで三船病院と社会復帰施設である三愛会コミュニティケアセンターが連携して、地域精神科医療を展開してきましたが、この約5年間は特に入院患者様の退院・地域移行を積極的に進めてきました。

その結果、平成17年から平成20年までの約3年間という短期間に在院患者数が約150名減少し、3つの病棟が廃止になり、現在在院患者数は約360名にまで減少しています。長期入院患者様の多くが今地域で生活しており、今後は彼らを含めた地域で生活している患者様の生活の質(QOL)の改善のために取り組んでいくつもりです。

この4月に診療報酬改訂が行われます。10年ぶりのプラス改訂ということですが、それは非常にわずかでしかなく、しかも中身の大きな配分が行われており、マイナス改訂になってしまう医療機関が多いのが実情かと思われま。当院もその中の1つであり、今後ますます、ソフト面およびハード面の改善が困難になりそうです。医療の質改善のためには医療機関の経済問題は重要であり、利用者に影響してきます。また現在深刻に

なりつつある医療崩壊も今回の診療報酬改定では食いつめることができないと言われていいます。

そのような不利な条件下ではありますが、平成22年度も1つ事業を予定しています。約3年前に全国で2番目に作った退院支援施設レイクビューがその役目を果たし、今年の6月末で廃止になります。退院する患者様の受け入れ施設であり、それによって2つの病棟を廃止することもできました。しかし1年以上入院されている患者様が対象となるので、今後は入所対象者が減っていき、一方では最大3年という入所期限がついているので運営自体が成り立たなくなる見込みであり、7月1日から入所期限に制約のないグループホーム等に転換します。

日中活動の場として、三船病院および三愛会コミュニティケアセンターが複数の種類の活動をこれまで用意していますが、レイクビューの日中活動の場であった生活訓練事業の廃止に伴う日中活動の受け皿として、平成9年から平成16年まで実施していたデイナイトケアを6年振りに7月1日から復活させます。以前と違って、デイケアと同じ場所ではなく、その階下にある廃止病棟を改築してデイナイトケアの施設を準備します。その結果中央館の1、2階併せた広いデイケア・デイナイトケアセンターが実現します。1つの日中活動の場が減って、新たに1つの活動の場が増えたわけですが、今後、デイケア・デイナイトケア活動を含む三船病院の外来機能を大きく展開していくための転機にしたいと考えています。



「看護部の現状と今後について」

看護部長 佐藤 ミサ子

精神科の看護師として重要なことは、日々何かを学ぶ姿勢を持ち続けること、そして患者様が疾患や障害を持ちながら等身大の自分を受け入れ、自分の物語を生きていることを援助することだと思います。

当院では看護部全体の看護理念・目標を基盤として、毎年病棟ごとにそれぞれ具体的に到達可能な病棟目標を掲げ、さらに看護師一人ひとりも自分の達成目標を設定して業務にあたるようにしています。看護部は、病院

職員の大半を占めています。そのため、看護部全体が同じ方向を目指してサービスを受ける患者様の立場に立って援助することが求められます。精神科の看護師として働くことに誇りを持ち、専門職としての役割・責任を再認識して看護チームで質の高い看護を提供するためには、常に理念・目標を意識して実践することが大切であると考えています。

精神科の大きな特徴として、看護師の関わり方ひとつで患者様の症状が大きく変化することが挙げられます。患者様と向き合いその真意をくみ取り、自分自身で省みて最善の対応をすることが、あらゆる看護の基礎となる姿勢です。患者様を中心とした多種多様な専門職(医局・看護師・薬剤師・作業療法士・精神保健福祉士・事務・栄養士など)と連携を図り、多職種チームで協働して患者様の回復に力を注いでいます。

また看護部での取り組みとして、記録時間の短縮とその余剰時間で患者様へのサービス向上を目指し、看護管理システムの導入を数年間かけて実施してきました。結果、さまざまな記録が電子化されたことにより、素早く情報の共有ができ、目的に応じたデータを知り、スタッフが効率的に働けるようになりつつあります。その他、観察処置フローシート・隔離フローシート・拘束フローシートなどは記録の形式をチェック方式に変更することで記録時間が短縮し、患者様と接する時間が増え患者様の变化を早期に発見して対応できるよう進めています。

また外来患者様・入院患者様からのご意見を知るために年2回の満足度調査を実施しています。その中で看護部に対する評価・要望などを取り上げ、日頃の業務や関わりを見直す機会となっています。さらに多職種チームによる退院支援活動も看護部として積極的に取り組んでいます。それは退院に向けて病院内で行う支援だけでなく、退院後の生活における支援も含まれます。地域生活を支える医療・福祉サービスの一つとして看護部では訪問看護を行っています。さまざまな関係機関と連携をとりながら地域での生活を維持・継続できるよう支援しています。それは症状の再発予防、治療の継続や悪化時の早期治療への足がかりになると考えます。

今後は病院全体として病院機能評価 Ver. 6受審に向けて、現在実施している各業務の確実な遂行および教育活動に力を注ぎ、看護部としては効率的・効果的な看護管理や指導者・看護師の育成にも力を入れていきたいと思っております。



三船病院医師からのメッセージ・・・

「高血圧について」

医師 寺本 鈴委子

高血圧とは収縮期血圧(上)が140mmHg以上または拡張期血圧(下)が90mmHg以上の場合を言います。

高血圧の原因は明確には分かっていませんが、遺伝的な要素や生活習慣(肥満、運動不足、喫煙、多量の飲酒、ストレス等)が関係していると考えられています。

高血圧は自覚症状が出にくく、放置しておくこと次第に動脈硬化が引き起こされ、脳梗塞や心筋梗塞などの合併症を起こすリスクが高まり、生命に関わることもあります。また合併症が現れて初めて高血圧に気付かれるということも多いので、日頃から自分の血圧を測定して知っておくことも重要です。

高血圧から身を守るためには、適度な運動、禁煙、ストレス回避、そして食事での塩分摂取を控えるなどがポイントになります。香川県ではうどんを食べる機会が多いと思いますが、なるべく汁を残すことができれば塩分の取りすぎが防げますね。また外食は調節できる自炊と違い、塩分を多く含む傾向にあります。外食の機会が多い方は、ぜひ気をつけてみてください。

生活習慣を見直し、自分の血圧を把握し、高血圧から身を守りましょう。

三愛会 トピックス

★三船病院クリスマス会

昨年12月25日(金)毎年恒例のクリスマス会を開催しました。ゲストに四国フォーク村の皆さまをお招きし、クリスマスソングなどを演奏していただき、たいへん盛り上がりました。からあげ、ケーキ、フランクフルトなどのバザーも好評でした。



★第24回相談室セミナー

2月25日(木)15:30～第24回相談室セミナーを開催しました。今回は「精神保健福祉サービスとは」と題して丸亀市役所福祉課 石井裕子氏を講師にお迎えし、障害者手帳や自立支援医療などについて説明していただきました。28名が参加されました。



三船病院 委員会活動紹介

「 図書委員会 」



図書委員会は、教育委員会の下部組織として平成18年4月1日より活動を始めています。

委員会は毎月1回開催しています。病院職員の知識や質の向上のため、医療情報の収集及び提供を援助しています。新規図書の購入依頼について承認検討や利用状況の報告をし、返却が遅れている人に対し早期の返却を促す等の活動を行っています。また、毎月の新規購入図書は図書室前に一覧表を掲示し、職員の利用促進を呼びかけています。

病院図書室とは、病院内の医師、看護師、コメディカルなど全職員に医学・医療情報を提供する場であり、公共の図書室と違うところは、情報が医学・医療情報に特化しているところです。そして最終的には患者様への診療等

に貢献できるよう、職員ひとりひとりの資質の向上を目指しています。

当院の図書室は中央館2階に位置しており、登録書籍は約1万冊あります。図書は「ロケマネくん」と名付けたソフトにバーコードで登録しており、本の貸借はこのロケマネくんによって管理されています。利用者には、図書カードが発行され、利用状況を確認することが出来ます。毎月の平均貸し出し数は50件程度で、一層の図書利用促進への努力が必要です。現在は毎月精神科関連の月刊誌を20冊程度購入しているので、各関連部署に配置し、いつでも新刊図書を閲覧できるよう利用の増加につなげています。

《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クリニカルパス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第1水曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)



【介護老人保健施設 福寿荘】

「 介護の現場で思うこと 」

介護福祉士 谷岡 章子

最近においては、介護福祉士の役割が社会的にたいへん重要なものであることが、一般に認められるようになってきました。私が介護の仕事に携わるようになって、はや6年が経とうとしています。

介護の現場で思うことは、人間と人間の関わり合いなので、中途半端なものであってはならないということです。利用者様の生命の安全と人格を尊重すること、利用者様の残存能力をできるだけ活用すること、多職種と連携をとり合ってよりよい状態へと介護しながら導いていくことは、押し付けや自己流の介護技術ではできないということです。経験や体験だけでなく、その方に合うよう工夫された技術が必要だと思います。

プロとしての誇りをもつことも大事だと思いますが、「これで良い」という考えを持つことより、常に立ち止まって「これで良かったのかな」と意識して心がけることが、自分の行う介護の質を高めることになると思います。介護に対するひたむきさや、前向きな考え方でできる温かさを常に持っていられる人でありたいです。

【三愛会コミュニティケアセンター】

指定共同生活援助事業所清和荘
 管理人 林 康紀

共同生活援助『清和荘』(事業所名)は、定員10名の「清和荘」、定員4名の「五月荘」、定員2名の「五月荘Ⅱ」の合計16名のグループホームです。その中でも定員10名の「清和荘」は、もともと昭和61年に県内で初めて設立した共同住居で、当時退院先の確保が難しかった方々の住居として活用され、その姿勢は変わらず現在も運営を続けております。

入居者の皆さまは、日中は一般就労や作業所への通所の他、デイケア、外来OT、地域活動支援センターなどへの活動に参加されています。そして『清和荘』の職員は、「清和荘」に1名(世話人、サービス管理責任者、管理者兼務)、「五月荘」「五月荘Ⅱ」に2名(非常勤)の体制で、日々の支援を行っています。支援内容は、洗濯や掃除、買い物、調理等の日常生活支援、事務手続きや対人関係及び病状等の個別相談援助、家族や関係機関との連絡調整等を行っています。また、必要に応じて服薬や金銭の管理における支援もしています。

職員として心掛けていることは、入居者の皆さまが毎日を生き生きと楽しく安心して生活できるように支援していくということです。そのためには、単に出来ないことを補う援助だけでなく、その方が本来持っている力に働きかける支援を常に意識することが大切だと考えています。

今後はグループホームを拡大し、関係機関等との連携を図り、地域の福祉サービス向上に取り組んでいければと思います。

《三船病院からのお知らせ》

【行事予定】

○三船病院家族会

日時：5月16日(日)

場所：三船病院会館 その他

内容：バザー及び即売会

演芸会

家族教室



《編集後記》

日増しに暖かさを感じる今日この頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか？今回は、平成22年度の抱負・展望をテーマに、自立訓練(生活訓練)事業所レイクビューの施設形態の変更やデイナイトケアの再開など、法人全体の今後の動きについてご紹介しました。大きな転換期を迎えようとしているわけですが、法人内でこれまで大切にしてきた理念や思いを決して忘れずに取り組んでいきたいと思っております。今後の進捗状況につきましては三愛 view で随時ご報告したいと思えます。
 (三船病院相談室PSW)